

日本原子力学会 中国・四国支部

第10回 通常支部大会（メール審議）

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中国・四国支部第10回通常支部大会はメール審議等での開催とします。

議事次第

1. 2019 年度事業報告 p. 1
2. 2019 年度収支実績報告 p. 10
3. 2020 年度支部役員の改選 p. 11
4. 2020 年度事業計画案 p. 13
5. 2020 年度収支予算案 p. 14
6. 2020 年度オープンスクール活動計画および予算案 p. 15
7. 中国・四国支部支部賞細則の改正 p. 16
8. 2020 年度支部表彰 p. 19

1. 2019 年度事業報告

(1) 通常支部大会

日 時：2019 年 6 月 1 日(土) 15:00～16:00

場 所：R C C 文化センター 601 会議室

出席者：40 名（うち委任状出席 20 名）

議 題：(1) 2018 年度事業報告

(2) 2018 年度収支実績報告

(3) 2019 年度支部役員改選

(4) 2019 年度事業計画案

(5) 2019 年度収支予算案

(6) 2019 年度オープンスクール活動計画および予算案

(7) 教育会員新設に伴う中国・四国支部規約の改定

(2) 支部幹事会

①第 1 回

日 時：2019 年 6 月 1 日(土) 13:00～14:00

場 所：R C C 文化センター 601 会議室

出席者：【幹事】

山岡（支部長）、遠藤（副支部長）、青野、梶本、片岡、迫田、佐藤、
田中、槇野（代理）、松岡、八木、結城

【顧問】

星

【支部幹事就任予定者】

神崎

【事務局等】

青木、金本

議 題：(1) 2018 年度事業報告

(2) 2018 年度収支実績報告

(3) 2019 年度支部役員改選

(4) 2019 年度事業計画案

(5) 2019 年度収支予算案

(6) 2019 年度オープンスクール活動計画および予算案

(7) 教育会員新設に伴う中国・四国支部規約の改定

(8) 中国・四国支部支部賞細則の見直しについて

(9) 2018 年度第 3 回支部協議委員会概要について

②第2回

日 時：2019年9月20日（金）12:15～13:15

場 所：岡山大学 津島キャンパス 一般教養棟(D22)

出席者：【幹事】

山岡（支部長），青野，占部，柏野，梶本，片岡，神崎，迫田，佐藤，
田中，古川（代理），結城

【事務局】

青木，金本

議 題：(1) 2019年度支部活動状況について

(2) 第1回支部協議委員会報告

(3) 中国・四国支部支部賞細則の改正について

(4) 中国・四国支部20周年記念行事について

③第3回

日 時：2020年2月15日（土）13:30～14:30

場 所：RCC文化センター 601会議室

出席者：【幹事】

山岡（支部長），遠藤（副支部長），青野，柏野，梶本，片岡，神崎，
迫田，佐藤，田中，榎野（代理），松岡，八木

【顧問】

星

【事務局】

青木，金本

議 題：(1) 2019年度活動状況報告

(2) 第2回支部協議委員会報告

(3) 支部設立20周年記念の感謝状表彰について

(4) 2020年度支部表彰の選考実施方法について

(5) 次回本部理事候補の推薦について

(6) 支部事務局の移管について

(3) 第13回研究発表会

日時：2019年9月20日(金) 10:00～14:30

場所：岡山大学 津島キャンパス 一般教養棟 (D23)

参加者：30名

プログラム発表：15件発表

開催日時：2019年(令和元年)9月20日(金)10:00～14:30

開催場所：岡山大学 津島キャンパス 一般教育棟(D23)

〒700-8530

岡山県岡山市北区津島中2丁目1番1号

TEL (086)252-1111

第1セッション 物理特性と放射線計測(1)

座長 迫田晃弘(JAEA・人形峠環境技術センター) 10:00～11:00

- (1) 不飽和粘土の水分量と電気化学インピーダンスの関係に関する研究
(岡山大・環境理工) ○石松賢大
- (2) 放射性同位体の効率的除去を目的としたゼオライトの吸着性能の検討
(愛媛大・院・理工) ○笠原彬良, 板垣吉晃, 青野宏通
- (3) 一方向性気孔構造を有するポーラスステンレス管内流れの伝熱促進効果
(山口東京理科大) ○宮本佳明, 安部祐希, 結城和久, 木伏理沙子, 海野徳幸
(熊本大) 外本和幸, 田中茂
- (4) イメージングプレートの実現性と光フェーディングの測定
(広島大・工) ○羽鳥千春, 田中憲一, 梶本剛
(広島大・院・工) 遠藤暁
- (5) カスケード放射線放出核種(Sb-125)のサム効果の計算
(広島大・工) ○上久保伸哉
(広島大・院・工) 梶本剛, 田中憲一, 遠藤暁

第2セッション 放射線計測(2)

座長 片岡隆浩(岡山大・院・保健) 11:15～12:15

- (6) 炭素標的における 290MeV/u Xe 入射中性子生成二重微分収率の測定
(広島大・工) ○出口大貴
(広島大・院・工) 梶本剛, 田中憲一, 遠藤暁
- (7) ポリマーゲル線量計を用いた中性子捕捉療法ビーム成分の弁別測定
(広島大・院・工) ○伊藤祐斗, 田中憲一, 梶本剛, 遠藤暁
- (8) オンコシード 6711 を用いた小線源治療の線量分布の計算
(広島大・工) ○山脇匡登, 田中憲一, 梶本剛, 遠藤暁
- (9) 90Sr 及び 89Sr 混在試料の放射能定量法の開発
(広島大・工) ○藤田直人, 梶本剛, 田中憲一, 遠藤暁
(近畿大・工) 荻部甚一
- (10) 周辺環境データに着目した原子力施設における排気ダストモニタ値の統計解析:予備的調査
(JAEA・人形峠環境技術センター) ○渡邊泰輔, 迫田晃弘, 宮内亨, 神崎訓枝, 田中裕史

第3セッション 保健物理と放射線健康科学

座長 結城和久(山口東京理科大・工) 13:15-14:15

- (11) 福島原発事故に伴うニホンザルの臓器線量の推定
(広島大・工) ○森宏祐, 梶本剛, 田中憲一, 遠藤暁
(東北大・災害科学国際研究所) 鈴木正敏
- (12) マウスボクセルファントムの作成と外部被曝線量率換算係数の推定
(広島大・院・工) ○松谷祐輝, 遠藤暁, 田中憲一, 梶本剛
(東北大・災害科学国際研究所) 鈴木正敏
- (13) 岡山大学医学部放射線技術科学専攻学生の放射線の健康影響に関する知識・意識の基礎調査
(岡山大・院・保健) ○矢野準喜, 片岡隆浩, 首藤妃奈, 山岡聖典
- (14) 低線量 X 線によるマウス強制水泳試験の無動時間と脳中の酸化ストレスの抑制効果に関する検討
(岡山大・院・保健) ○首藤妃奈, 片岡隆浩, 矢野準喜, 石田毅, 中田哲也, 花元克巳, 山岡聖典
(国立循環器病研究センター研究所) 大和恵子
(電中研・放射線安全研究センター) 野村崇治
- (15) 低線量 X 線によるマウス強制水泳試験の無動時間と脳中の酸化ストレスの抑制効果に関する検討
(岡山大・院・保健) ○片岡隆浩, 石田毅, 首藤妃奈, 矢野準喜, 花元克巳, 山岡聖典
(JAEA・人形峠環境技術センター) 神崎訓枝, 迫田晃弘, 田中裕史
(岡山大・自然生命科学研究支援センター) 寺東宏明
(岡山大・院・医歯薬) 光延文裕

(4) 支部表彰(優秀発表賞)

第13回支部研究発表会(2019年9月20日)の若手発表者を対象に実施。

委員会において、以下4名を優秀発表賞として表彰した。

- ・笠原 彬良(愛媛大学):

放射性同位体の効率的除去を目的としたゼオライトの吸着性能の検討

- ・宮本 佳明(山口東京理科大学):

一方向性気孔構造を有するポーラスステンレス管内流れの伝熱促進効果

- ・伊藤 祐斗(広島大学):

ポリマーゲル線量計を用いた中性子捕捉療法ビーム成分の弁別測定

- ・首藤 妃奈(岡山大学):

低線量 X 線によるマウス強制水泳試験の無動時間と脳中の酸化ストレスの抑制効果に関する検討

(5) 講演会

①第1回

日 時: 2019年6月1日(土) 16:00~17:00

場 所: RCC文化センター 601会議室

講 師: 日本原子力研究開発機構 人形峠環境技術センター 迫田晃弘 先生

題 目: 「人形峠における環境放射能研究」

座 長: 中国・四国支部支部長 山岡聖典先生

②第2回 20周年記念講演会

日時：2020年2月15日(土) 15:00～17:00

場所：RCC文化センター 601会議室

20周年記念講演会 プログラム

15:00－15:05 開会のご挨拶

支部長 山岡聖典 先生（岡山大学大学院保健学研究科 教授）

15:05－15:35 第1セッション 支部発足当時の思い出

座長 遠藤 暁 先生（広島大学）

(1) 中国・四国支部とのこれまでの関わりと、これからについて思うこと

星 正治 先生（広島大学名誉教授）

(2) 支部発足当時の思い出

静間 清 先生（広島大学名誉教授）

15:40－16:10 第2セッション 今後の本支部・学会に期待すること

座長 山岡聖典 先生（岡山大学）

(3) 原子力学会中国・四国支部への期待

田中憲一 先生（広島大学大学院工学研究科 准教授）

(4) 原子力・放射線分野の若手研究者に期待すること

片岡隆浩 先生（岡山大学大学院保健学研究科 助教）

16:20－16:50 第3セッション 原子力発電所における技術開発の現状

座長 柏野士郎 様（四国電力）

(5) TDRを応用した炉心水位計測システムの実炉における適用と構成について

谷川 稔 様（林 司 様 代理、中国電力 電源事業本部 炉心技術グループ
専任副長）

16:50－16:55 閉会のご挨拶

副支部長 遠藤 暁 先生（広島大学大学院工学研究科 教授）

16:55－17:00 記念撮影（参加者全員）

この支部結成 20 周年記念講演会において、星 正治先生と静間 清先生に対して、多年にわたり当支部を支え現在の基盤を作られた功績が誠に顕著であることから、その功績をたたえて感謝状が授与された。

(6) 見学会

日時：2019年9月20日(金) 15:30～17:00

場所：中国電力（株）水島発電所（倉敷市）

参加者：28名

(7) オープンスクール

①第1回 山口東京理科大学工学部

テーマ：「エネルギーの現状と今後」

開催日：2019年7月5日

場 所：山口東京理科大学

対象者：山口東京理科大学工学部（66名）

概 要：山口東京理科大学で日本における「エネルギーの現状と今後」の講演会を開催した。講義終了後、日本における今後のエネルギーについてのグループワークを実施した。

②第2回 岡山大学医学部

テーマ：「診療放射線技師養成学生に対する原子力・放射線の安全に関する授業とアンケート調査」

開催日：2019年7月10日, 11日, 26日, 8月6日

場 所：岡山大学医学部

対象者：医学部保健学科放射線技術科学専攻全学生（144名）

概 要：岡山大学医学部保健学科放射線技術科学専攻の学生に対し「診療放射線技師養成学生に対する原子力・放射線の安全に関する授業とアンケート調査」を実施した。（結果の一部は第13回研究発表会で報告された。）

③第3回 広島大学総合科学部

テーマ：「福島原発事故の概要と解説」

開催日：2019年7月27日

場 所：広島大学

対象者：講義受講者（123名）

概 要：広島大学での講義「放射線と自然科学」の一環として、福島原発事故の概要と解説を行い、これからのエネルギー源を考えてもらい、講義終了後、アンケートを実施した。

アンケート結果：

「原子力発電をどう思うか」

賛成 7% (9人)

条件付き賛成 25% (31人)

(安全性向上・代替エネルギーが見つかるまで使用)

反対 28% (34人)

その他 40% (49人)

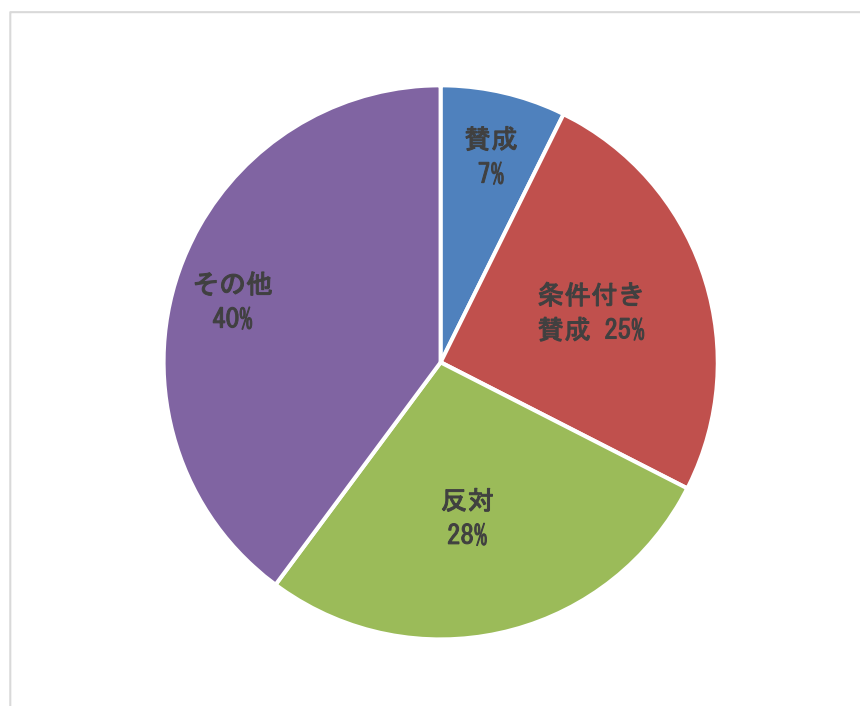


図1 質問「原子力発電をどう思うか」についての結果

「将来のエネルギー源は何か」（複数回答可）

	%	人数
太陽光	31.2	58
地熱	11.3	21
再生可能エネルギー	9.7	18
バイオマス	8.6	16
風力	8.1	15
水力	7.5	14
原子力	3.8	7
メタンハイドレード	3.2	6
水素	3.2	6
核融合	3.2	6
潮力	1.1	2
自然エネルギー	0.5	1
なし	0.5	1
安全なもの	0.5	1
その他	7.5	14

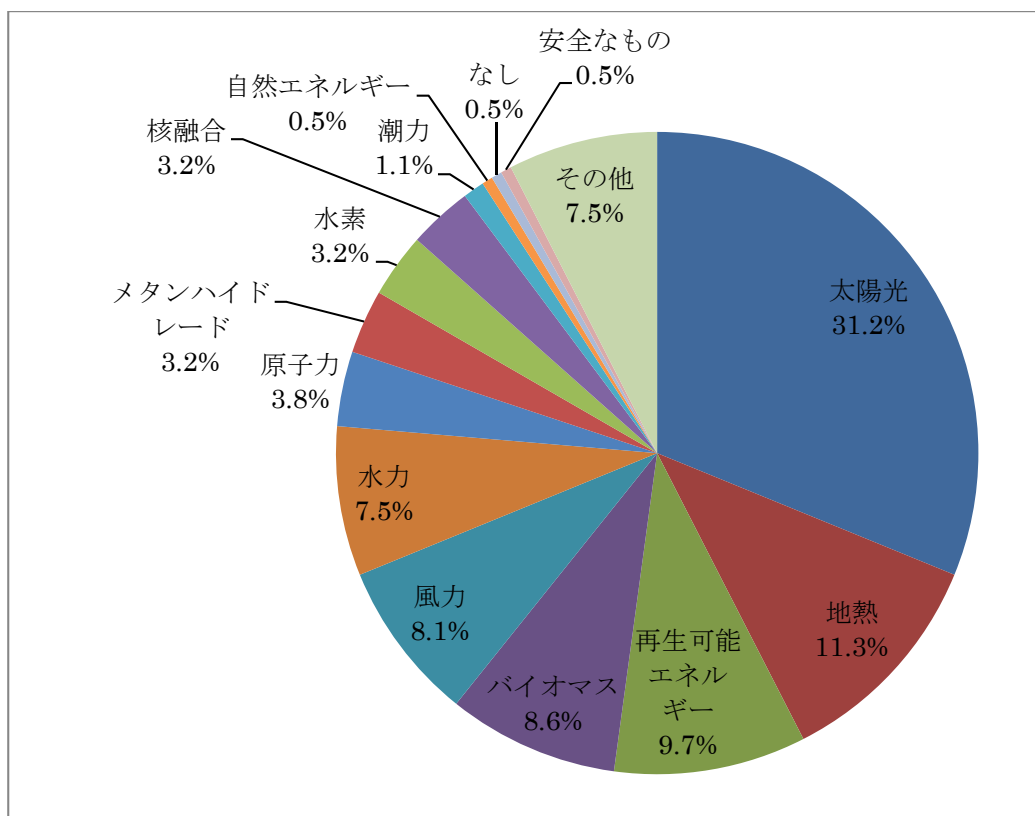


図 2 質問「将来のエネルギー源は何か」(複数回答可)についての結果

④第 4 回 山口東京理科大学オープンキャンパス

テーマ：「霧箱で飛行機雲を見てみよう」

開催月：2019 年 8 月 3 日, 4 日

場 所：山口東京理科大学

対象者：一般（来客数 110 人）

概 要：山口東京理科大学で開催されたオープンキャンパスと連動する形で、「霧箱で飛行機雲を見てみよう」のイベントを実施した。実験を通して放射線に関する知識だけでなく、エネルギーの大切さについても解説した。

⑤第 5 回 広島大学祭

テーマ：「霧箱で放射線・宇宙線を見てみよう」

開催月：2019 年 11 月 2 日

場 所：広島大学

対象者：一般（来客数 52 人）

概 要：霧箱による飛跡の観察、ウランガラスの展示、放射線照射樹脂の観察、サーベイメータを用いた身の回りの放射線の測定を実施した。霧箱による飛跡の観察では、3 台の霧箱を用いて、ユークセン石中のウラン、トリウム系列核種からの α 線、ランタンマンタルからのトリンガスおよびその娘核種からの α 線、宇宙線中の μ 粒子を観察してもらった。それぞれの線源からの放射線の作る飛跡観察と線源に関する説明を行った。ウ

ランガラスの展示では、ウランガラスにブラックライトをあてて、蛍光を観察してもらい、原子力発電所の燃料以外のウランの使用について学んでもらった。射線照射樹脂の観察では、熱湯に放射線照射・非照射のポリカプロラク톤を浸して、放射線照射により熱耐性向上、形状記憶機能の付与を観測してもらった。身の回りの放射線の測定では、サーベイメータを用いてカリ肥料、伯方の塩、減塩塩、鉍物試料、バックグラウンドなどからのγ線を測定してもらい、身近にある物質からも放射線が放出されていることを確認してもらった。

今年度の講評と今後の活動について

広島大学で実施された原子力に対するアンケートから、「原子力発電をどう思うか」について、今年度はその他（賛成・反対の意思の記載なし）が多かった。反対は昨年度とほぼ変わらない割合を示しており、賛成と条件付き賛成が昨年度より小さい割合となった。

過去のアンケート結果と比較すると、賛成と条件付き賛成はH24 年度61%, H28 年度69%, H29 年度72%, H30 年度62%, 今年度32%である。例年60から70%程度となっているが、今年度の割合は著しく低い。一方で、反対の割合はH24 年度39%, H28 年度24%, H29 年度17%, H30 年度26%, 今年度28%である。過去3 年分では凡そ20 から30%で推移しており、今年度もその範囲に収まっている。

「将来のエネルギー源は何か」については、例年同様に太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの割合が高かった。原子力発電の割合は、僅かながら小さくなった（H28 年度6%, H29 年度8%, H30 年度6%, 今年度4%）。まとめると、原子力発電に反対の割合は今年度を含む直近4 年間20 から30%程度とほぼ一定の割合を示しており、福島原発事故以降イメージ改善がなされているが、負のイメージは払拭しきれていないことが伺える。将来のエネルギー源については、例年通り、原子力発電を選ぶには至っておらず、太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーへの期待・関心が高い。

2. 2019 年度収支実績報告

2019年度収支実績

(単位:円)

		科目コード	上 期 (4～9月)	下 期 (10～3月)	合 計	内 訳 (使 途)
収入	会費収入	-			0	
	(A)本部予算配分金収入	14531	743,000		743,000	部会・支部のみ入力
	参加費収入	14201			0	
	テキスト(論文集)売上収入	14361			0	
	受託料収入	14641			0	20%を本部回収額支出に計上(規程0303) (受託事業:120万円or20%のいずれか多い額)
	協賛・後援・賛助金収入	14681			0	20%を本部回収額支出に計上(規程0303)
	寄付金収入	14721			0	20%を本部回収額支出に計上(規程0303)
	その他収入(上記以外)	-			0	
					0	
				0		
(B)収入計			743,000	0	743,000	
支出	臨時雇賃金支出	15021			0	
	会議(会場)費支出	15041	35,340	65,080	100,420	・支部大会, 研究発表会, 記念講演会会場
	旅費交通費支出	15051	285,290	60,980	346,270	・支部大会, 研究発表会, 記念講演会旅費
	通信運搬費支出	15061			0	
	消耗品費支出	15091			0	
	一般外注経費支出	15111	23,760	23,100	46,860	・要旨集製本, 記念講演会記念品
	出展費支出	15121	71,280		71,280	・見学会貸切バス
	委託費支出	15131	540	440	980	・雑支出
	諸謝金支出	15161			0	
	本部回収額支出	15301			0	
	その他支出(上記以外)	-			0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
				0		
				0		
(C)支出計			416,210	149,600	565,810	
2019年度予算収支尻 (B)-(C)			326,790	-149,600	177,190	

前年度繰越金	1,278,313
次年度繰越金	1,278,313

3. 2020 年度支部役員の改選

(1) 2019 年度中国・四国支部役員

(2019 年 6 月 1 日支部大会承認)

(2019 年 9 月 1 日所属変更実施)

役職	氏 名 (所属)	備考
支部長	山岡 聖典 (岡山大学)	代議員
副支部長	遠藤 暁 (広島大学)	
支部幹事	青野 宏通 (愛媛大学)	
	占部 逸正 (福山大学)	
	柏野 士郎 (四国電力)	代議員 会計担当幹事
	梶本 剛 (広島大学)	
	片岡 隆浩 (岡山大学)	
	迫田 晃弘 (日本原子力研究開発機構)	
	佐藤 治夫 (岡山大学)	
	鈴木 和彦 (岡山大学)	
	田中 憲一 (広島大学)	
	林 司 (中国電力)	
	松岡 雷士 (広島工業大学)	
	馬原 陽一 (三菱日立パワーシステムズ)	
	八木 直人 (日本原子力研究開発機構)	
	結城 和久 (山口東京理科大学)	
	神崎 訓枝 (日本原子力研究開発機構)	新任
オープン スクール 委員	結城 和久 (山口東京理科大学)	本部委員
	梶本 剛 (広島大学)	支部委員
	田中 憲一 (広島大学)	支部委員
顧問	菊地 義弘 (広島大学名誉教授)	
	星 正治 (広島大学名誉教授)	
事務局	四国電力 原子力部 燃料技術G 青木, 金本	

(敬称略。50 音順で記載。)

(2) 2020 年度中国・四国支部役員（案）

役職	氏 名 (所属)	備考
支部長	遠藤 暁 (広島大学)	
副支部長	佐藤 治夫 (岡山大学)	
支部幹事	青野 宏通 (愛媛大学)	
	柏野 士郎 (四国電力)	代議員
	梶本 剛 (広島大学)	
	片岡 隆浩 (岡山大学)	
	神崎 訓枝 (日本原子力研究開発機構)	
	迫田 晃弘 (日本原子力研究開発機構)	
	田中 憲一 (広島大学)	
	林 司 (中国電力)	
	松岡 雷士 (広島工業大学)	
	馬原 陽一 (三菱日立パワーシステムズ)	
	八木 直人 (日本原子力研究開発機構)	会計担当幹事
	結城 和久 (山口東京理科大学)	
	寺東 宏明 (岡山大学)	新任
	西山 祐一 (徳島大学)	新任
	古川 祐司 (中国電力)	新任
	中川 俊一 (四国電力)	新任
オープン スクール 委員	結城 和久 (山口東京理科大学)	本部委員
	梶本 剛 (広島大学)	支部委員
	田中 憲一 (広島大学)	支部委員
顧問	菊地 義弘 (広島大学名誉教授)	
	星 正治 (広島大学名誉教授)	
	占部 逸正 (福山大学名誉教授)	新任
	山岡 聖典 (岡山大学)	新任, 代議員
事務局	日本原子力研究開発機構 迫田, 神崎	

(敬称略。50 音順で記載)

なお、本部の 2020 年度新役員候補者募集に関して、中国・四国支部は山岡聖典氏を理事候補として推薦した。

4. 2020 年度事業計画案

(1) 支部大会

通常支部大会を6月頃に開催する。必要に応じて、臨時支部大会を開催する。

(2) 支部幹事会

年3回程度開催する。それ以外は、適宜メール等で意見交換を行い、事業を遂行する。

(3) 研究発表会

研究発表会実施委員会を中心に実施時期等を検討し、第14回研究発表会を開催する。

(4) 講演会

年2回程度開催する。

(5) オープンスクール

学生及び一般の方々を対象に授業・講演、大学祭出展等の形で、広島大学、山口東京理科大学および岡山大学にて開催する。

(6) 見学会

年1回程度開催する。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況により実施の可否・方法などが流動的であるため、本部や他の支部と情報交換をしながら実施について検討する予定である。

5. 2020 年度収支予算案

2020年度収支予算(案)申請書

提出部門名称

中国・四国支部

(部門コード: 249)

(単位:円)

	科目コード	上 期 (4～9月)	下 期 (10～3月)	合 計	内 訳 (使 途)
収入	会費収入	-		0	
	(A)本部予算配分金収入	4531	1,244,000	1,244,000	部会・支部のみ入力
	参加費収入	4201		0	
	テキスト(論文集)売上収入	4361		0	
	受託料収入	4641		0	20%を本部回収額支出に計上(規程0303) (受託事業:120万円or20%のいずれが多い額)
	協賛・後援・賛助金収入	4681		0	20%を本部回収額支出に計上(規程0303)
	寄付金収入	4721		0	20%を本部回収額支出に計上(規程0303)
	その他収入(上記以外)	-		0	
				0	
(B)収入計		1,244,000	0	1,244,000	
支出	臨時雇賃金支出	5021		0	
	会議(会場)費支出	5041	60,000	60,000	
	旅費交通費支出	5051	900,000	900,000	・支部大会・幹事会・研究発表会・見学会
	通信運搬費支出	5061	10,000	10,000	・資料等の運搬
	消耗品費支出	5091	4,000	4,000	・賞状・筆記用具購入
	一般外注経費支出	5111	270,000	270,000	・要旨集製本、支部賞記念品、HP管理委託
	出展費支出	5121		0	
	委託費支出	5131		0	
	諸謝金支出	5161		0	
	本部回収額支出	5301		0	
				0	
				0	
				0	
				0	
				0	
				0	
				0	
				0	
				0	
(C)支出計		1,244,000	0	1,244,000	
2020年度予算収支尻 (B)-(C)		0	0	0	

6. 2020 年度オープンスクール活動計画および予算案

2020 年度原子力学会・中国四国支部のオープンスクールに関し、例年通り、広島大学にて2回(一般を対象にした広島大学祭での開催, 学生を対象とした広島大学教養授業), ならびに山口東京理科大学にて2回(工学部学生を対象とした講演, 一般を対象にしたオープンキャンパス), 更に岡山大学にて1回(医学部学生を対象とした授業), 合計5回を実施する予定である。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって実施の可否は常に流動的であることが予想されるため、本部や他の支部と情報交換を継続しながら実施について検討する予定である。

7. 中国・四国支部支部賞細則の改正（報告）

中国・四国支部の支部表彰については、従来、中国・四国支部支部賞細則（以下、支部賞細則という）により「支部功労賞」および「優秀発表賞」の二種類が定められていた。

支部表彰については、長年見直しを行っておらず、若手・中堅研究者への表彰機会が限られていたことから、第2回支部幹事会(2019年9月20日)にて、中堅・若手研究者を対象とした支部賞を新規に設ける等の支部賞細則改正することで承認された。（別紙参照）

見直し後の支部表彰の概要は以下の通りである。

〔支部功労賞〕

幅広く原子力・放射線などの広報活動または学術・技術支援活動を行い、本支部ひいては本学会の発展に顕著な貢献があった個人または団体に授与する。

〔支部学術賞〕

原子力・放射線などの分野における長年の研究歴並びに業績により総合的に判断し、本支部ひいては本学会において今後とも顕著な活躍が期待される個人または団体に授与する。（個人の場合は概ね55歳以下、1回のみ）

〔支部奨励賞〕

原子力・放射線などの分野において活発な研究活動を行い、本支部ひいては本学会において将来性のある若手研究者に授与する。（概ね45歳以下、1回のみ）

〔優秀発表賞〕

本支部が開催する研究発表会において、優れた発表を行った若手研究者（会員・非会員を問わない）に授与する。（概ね35歳以下、1回のみ）

以 上



中国・四国支部 支部賞細則

2019 年 9 月 20 日 支部幹事会承認

(目的)

第1条 本細則は、一般社団法人日本原子力学会（以下、「本会」という）中国・四国支部規約（0901-07）第5条に基づき、中国・四国支部（以下、「支部」という）あるいは本会の活動に貢献のあった個人、団体または学生の会員等に対してその功績をたたえることを目的とする。

(賞の種類および対象)

〔支部功労賞〕

第2条 幅広く原子力、放射線等の広報活動または学術・技術支援活動をおこない、本支部ひいては本会の発展に顕著な貢献があった個人または団体に授与する。

〔支部学術賞〕

2 原子力・放射線等の分野における長年の研究歴並びに業績により総合的に判断し、本支部ひいては本会において今後とも顕著な活躍が期待される個人または団体に授与する。表彰資格は、個人の場合はおおむね 55 才以下の研究者とし、表彰を受けることができるのは個人、団体とも 1 回のみとする。

〔支部奨励賞〕

3 原子力・放射線等の分野において活発な研究活動を行い、本支部ひいては本会において将来性のある若手研究者に授与する。表彰資格はおおむね 45 歳以下の研究者とし、表彰を受けることができるのは 1 回のみとする。

〔優秀発表賞〕

4 本支部が開催する研究発表会において優れた発表をおこなった若手研究者（会員、非会員を問わない）に授与する。表彰資格はおおむね 35 歳以下の研究者とし、表彰を受けることができるのは 1 回のみとする。

(選考方法)

〔支部功労賞、支部学術賞、支部奨励賞〕

第3条 支部に所属する会員（自薦、他薦を問わない）は推薦書により候補者を推薦し、2 月末までに支部長に提出する。支部長は支部幹事会に諮り、採否を決定する。表彰はそれぞれ年 1 件程度とする。但し、いずれの賞も該当する対象がない場合は授与しないものとする。

〔優秀発表賞〕

- 2 支部幹事および顧問から審査者を選定し、研究発表会における発表内容等を評価して3件程度を決定する。

（表彰）

第4条 支部功労賞、支部学術賞および支部奨励賞は支部大会において表彰し、「表彰状と記念品」を贈呈する。優秀発表賞は研究発表会の終了時に表彰し、「表彰状」を贈呈する。

（選考結果の報告）

第5条 支部表彰をおこなった場合にはすみやかに選考過程ならびに選考結果等を本会理事会に報告しなければならない。

（改定）

第6条 本細則の改定は、支部幹事会が決定し、支部大会ならびに理事会に報告するものとする。

（その他）

第7条 推薦書様式は支部ホームページよりダウンロードして使用する。

附則

- 1 平成21年5月30日 中国・四国支部総会制定、同日施行
- 2 改定履歴
 - ① 平成23年3月17日 改定
 - ② 内規を細則に変更 平成28年5月21日 第1回中国・四国支部幹事会起案、平成28年5月24日 第1回表彰・推薦小委員会承認（改定前は、改定に表彰・推薦小委員会承認を必要としたため、今回まで表彰・推薦小委員会付議）
 - ③ 2019年9月20日 支部幹事会承認

附則

- 1 平成23年3月17日改定の内規は、平成23年4月1日より施行する。
- 2 平成28年5月24日改定の細則は、表彰・推薦小委員会承認の日より施行する。
- 3 2019年9月20日改定の細則は、支部幹事会承認の日から施行する。

8. 2020 年度支部表彰

2020 年度の支部表彰について、支部幹事会（5/11～18 にてメール開催）にて審議した結果、下記のように支部功労賞 2 件、支部奨励賞 2 件を授与することとした。なお、支部学術賞に該当者はいなかった。

（1）支部功労賞

受賞者： 星 正治 氏（広島大学名誉教授）

授賞理由：①広島・長崎の被爆者の被曝線量評価研究で日米のプロジェクトに参加し被ばく試料を収集し被曝線量評価体系(DS02)の構築に貢献された。②チェルノブイリの事故について、その汚染と影響に関する測定や計算を行い、甲状腺の被曝線量を計算し、被ばくの実態解明に貢献された。③セミパラチンスクでは、旧ソ連核実験場周辺での汚染の測定と放射線影響研究を行い、国際的チームを構築し 24 年にわたって主導的に推進された。この研究は現在も継続している。④福島事故では福島県の東半分を 2km のメッシュに区分し土壌収集と測定を行った。この研究ではプロトコルを定め、日本全国の 100 あまりの大学や研究所の共同プロジェクトを推進された。このデータは被曝線量推定のための基礎データとなっている。⑤中性子捕捉療法(BNCT)では、加速器を使った固体 Li ターゲットシステムを提案し、推進されている。日本原子力学会からフェローの称号が授与され、当該中国・四国支部では幹事や支部長を歴任され、その維持と発展に貢献された。以上の理由による。

受賞者： 占部 逸正 氏（福山大学名誉教授）

授賞理由：日本原子力学会中国・四国支部の支部長として支部活動に貢献されるとともに、平成 23 年には東京電力福島第一原子力発電所事故の環境影響調査や原子力学会の事故対応に関する情報発信に尽力された。また、岡山県環境放射線等測定技術委員会委員をはじめとする各地域の原子力環境安全対策に取り組まれてこられ、環境放射線計測に関する研究から原子力緊急時の放射線防護、ひいては放射線の安全利用まで幅広くご尽力されており、これらにより当該中国・四国支部活動に大きな貢献を果たされた。以上の理由による。

（２）支部奨励賞

受賞者： 片岡 隆浩 氏（岡山大学）

題 目： 低線量 X 線照射またはラドン吸入による抗酸化機能の亢進と酸化ストレス
関連疾患の抑制効果に関する研究

授賞理由：研究は原子力科学技術・人材育成推進事業共通基盤型原子力研究プログラムなどに採択され、原発事故に伴う放射線の健康影響について、酸化ストレスの観点から実施されてきた。平成 24 年に日本放射線影響学会の奨励賞を、平成 31 年には放射線影響研究奨励賞をそれぞれ受賞し、将来の放射線健康影響の研究分野において関連学会からも活躍が期待されている。研究業績として、原著論文が計 61 件、著書が計 6 件を挙げ、活発な活動を行い、我が国の原子力・放射線研究の進展にも貢献してこられた。以上の理由による。

受賞者： 梶本 剛 氏（広島大学）

題 目： CERN 加速器混合場粒子場（CHARM）施設の高エネルギー 2 次粒子場の評価に関する研究

授賞理由：研究は核データの系統的な測定・収集、放射線防護、環境放射能、医学物理と広範囲の原子力関連テーマを実施しており、直近 5 年で 26 報を国際ジャーナルに発表し、顕著な研究成果を公開されている。これらの研究成果は大いに評価でき、今後も、中国・四国支部ひいては我が国の当該研究のレベル向上への寄与や支部活動への貢献が大いに期待される。以上の理由による。

なお、表彰式については、支部賞細則に基づき、支部大会にて実施することとなっているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため今年度の支部大会はメール審議で開催することから、別途実施することとする。

以 上